

● 登下校について

	質 問	回 答 (丹波市教育委員会への確認結果を要約)
1	通学支援はどんな支援ですか。バスなら何台ぐらいで、どんなところを停留所にしてありますか。	○通学支援に関して 路線バス利用者…定期券購入費相当額 路線バスを利用しない者…距離に応じた補助金を交付 統合前：①上久下地区の遠距離通学対象地区生徒に補助金を交付 統合後：①和田地区生徒に、定期券購入費または、補助金を交付 ②上久下地区の遠距離通学対象地区生徒に補助金を交付 ※上久下地区はバス路線が入っていないため補助金交付 ○バスに関して 校舎北側に隣接して「中学校前」停留所を新設し、その他は既存の停留所を活用 既存の運行ダイヤでは通学への対応が不十分なため、運行会社（ウイング神姫）と協議調整 朝夕の増便、学校行事に合わせた臨時便の運行等、可能な範囲で学校生活に対応 ルートの変更や区間の延伸も実施
2	通学支援対象者の条件を教えてください。（自宅から何kmとしたのか地区で決めたのか、要望に合わせたのか）	集落の公民館を基点として通学距離が6km以上の生徒 ※通学支援対象者：和田地区の生徒及び上久下地区の遠距離通学対象地区の生徒
3	通学支援を使ったときに、登校にかかる生徒の通学時間は平均どれぐらいですか。（1番遠い生徒の通学時間は）	路線バス使用：平均通学時間は30分程度（自宅からバス停までの移動時間を含む） 1番遠い生徒の通学時間は40分程度
4	通学支援対象者は何割ですか。	通学支援対象者は全校生徒の約4割（令和6年4月現在）
5	通学支援の対象生徒で、通学支援を使わずに登校している生徒の割合はどの程度ですか。またその方法は。（自転車、保護者の送迎など）	和田地区生徒 98人 自転車通学 3人 (4%) 保護者送迎 1人 ※路線バスなし 上久下地区 自転車通学 9人 ※路線バスなし 全通学支援対象者 107人 路線バスを利用せず登校 13人 (12%) ※バスによる通学支援を行っていない場合でも、遠距離通学補助金交付による通学支援
6	バスの通学支援がある場合、部活動の時間に合わせて2便出たりしますか。	平日については、部活動の時間に合わせるのではなく、登下校時間に合わせるという考え方でバスを運行。 休日は、既存のダイヤをベースに、午前、午後の2部に分けて部活動ができるようダイヤの調整。 ※休日の運行本数は、平日の約半分のため、バス時刻にあわせた部活動を実施。 便数については、バス通学対象生徒が94人（R6現在）のため、バスの乗車定員の関係から、通常の便に加え、もう1便を増便。 ※休日については、増便なし

● 部活動について

	質 問	回 答
1	休日の部活動参加への支援はありますか。	路線バスを使って登校
2	休日支援がない場合、遠い生徒はどうやって部活動に参加しますか。	路線バスによる支援
3	毎日、学校外でする部活動はありますか。あるならどうやって行っていますか。	現在、学校外での部活動なし
4	統合することで部活動も統廃合があったと思いますが、生徒への事前フォローはどのようにされましたか。	統合1年前には、統合前の2校にある部活動は存続する（同じものは統合する）という基本方針を示し、新規の部活動は設置せず。

● 子どもたち・保護者について

	質 問	回 答
1	統合前に事前交流はされましたか。（どれぐらいの時期にどんなことを）	学年単位で、年に1～2回程度、既存の行事等を活用して交流。 （4月に新しい制服の着こなし方についてのセミナー、5月にトライやる・ウィークの事前学習会等） 部活動においては、複数の部（野球、男バスケ、女バレー）で合同チームを編成（部員数の減少による編成） 統合後の学校（生徒会）づくりに向け、統合2年前から2校の代表生徒4人ずつが集まり、統合準備委員会を編成して、生徒心得等の策定について協議。

2	統合後に交流会などはありましたか。	特別の機会をつくらず、通常の学校生活を送る中で交流
3	統合時に受験を迎える生徒保護者へのアドバイスをお願いします。	統合しても、進路指導には変わりなし（統合が受験のデメリットになることは一切なし） ※生徒が増えることで、多様な考え方に触れることができたり、刺激しあえたり、教員が増えることから、より多くの支援を受けることが可能となる。
4	統合後、どれぐらいで学校間の垣根を越えた友達付き合いができるようになりましたか。	新しい環境になじめるか、友達ができるか等を心配する生徒、保護者はあったが、そもそも「垣根」「派閥」のような意識はなかった。 統合初日から、新しい仲間づくり、学校づくりに取り組んでいくことができた。

● 統合場所や校舎について

	質 問	回 答
1	なぜ、新しい校舎にしたのですか。	校舎については、既存校舎の改修案と新校舎の建設案で長期間協議。 それぞれの案をコスト面や環境面、通学の安全面等から比較検討し、新校舎に決定。 また、質の良い学びを提供できる施設として新校舎の建設を希望する意見もあり。
2	どういう基準で、校舎の場所を決めましたか。	既にスポーツ施設として立地していることから整備期間の見通しがたつこと、統合中学校として必要な面積を有すること、周辺には支所庁舎がある等公共施設ゾーンとして位置づけられることを踏まえて教育委員会が提案

● 統合の準備に向けて

	質 問	回 答
1	統合の際に1番時間のかかった話し合いは何ですか。	校舎の場所
2	P T A、行事、時間割、風習などをどのようにすり合わせていきましたか。	教職員、生徒、P T A（※）それぞれで、統合に向けた準備会（プロジェクトチーム）を設置し、各校の伝統や取組を踏まえながら、新しい学校の在り方について、時間をかけて協議し、それを全体で共有。 また、地域住民も加えた熟議を行い、新しい学校で育みたい生徒像について確認 ※P T Aについては、市設置の山南地域市立中学校統合準備委員会のP T A部会からの依頼を受け、2校の当時のP T A役員と教職員（教頭）で協議（R3.7～R4.12まで11回の会議）
3	統合の際に事前にやっておいてよかったことは何ですか。	教職員間の事前協議（研修）と生徒同士で話し合う機会をつくることで、少なくとも2年間には必要 ※生徒は統合時に3年生になる生徒が中心にり、1年生のときから話し合う機会を設定 ※校舎が新築だったので校舎見学会を実施
4	これはあった方がよい、しておいた方がよい、市にお願いした方がよいと思うことは何ですか。	学校においては、旧校舎の整理や移動物品等の準備は計画的に実施（早めに済ませる） 4月当初の行動計画策定や各種提案は3月中旬に前倒しで行い、3月の最終週は引越しに集中
5	なぜ既存校舎ではなく、新設することになったのですか。	上記「統合場所や校舎について」の1を参照

● 統合後について

	質 問	回 答
1	統合後に出てきた問題点や課題などを教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの乗車マナー指導に時間が必要 ・校舎整備に関して不便な箇所がいくつかあり （例：屋外散水栓や電源の個数不足、屋外使用備品の収納スペース不足、更衣室のスペース不足等） ・工事期間中に一時的に集中して電気使用したことによりデマンド値が高くなり、年間の電気料金の支払いが高額となった